

令和3年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 16

| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------|--------------|---|--------------|---------|---------|---------|---------|
| 主要事業名 | オリンピック開催に向けた社会教育活動の推進 | | | | | | 作成日 | R4.5.25 |
| | | | | | | | 担当課名 | 中央公民館 |
| | | | | | | | 担当者名 | 出津 早苗 |
| 事業の性質 | 法定受託 事務 | 自治事務 (義務) | ○ | 自治事務 (任意) | ○ | 市民サービス | 管理経費 | |
| 事業期間 | 単年度 | 年度繰返し | ○ | 期間限定 | 令和元年度から | 建設事業 | その他 | |
| | | | | | | 令和元年度から | 令和3年度まで | |

1 事業の位置づけ

| | | | | | | | |
|-------------------------|-----|--------------------------|--|---------------------------|---|---------------|--|
| ①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ | | | | ②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ | | | |
| 基本方針 | 4 | 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上 | | 基本目標 | 4 | 市民と共に創るまちづくり | |
| 体系項目 | (1) | 社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進 | | 基本政策 | 9 | 地域が結び笑顔あるれるまち | |
| 個別施策 | ① | 学習に取り組める場と学習機会の充実 | | 基本施策 | 2 | コミュニティ活動の活性化 | |
| 根拠法令等 | | | | | | | |

2 事業概要 (Plan)

| | |
|--------------------------|--|
| 事務事業の概要・背景 | 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、東京2020大会が1年延期となり、令和3年に開催されました。コロナ禍の中で、令和元年度の実行委員会で熟議したオリンピックおもてなし事業、機運醸成事業の活動内容を実施していくことは困難な状況であると判断し、令和2年度に引き続き、鹿嶋の芸術・文化、歴史・伝統などが同時に楽しめる展示中心のイベントを開催。 |
| 目的（事業の目指すところ） | オリンピック開催が1年延期されたことを前向きに捉え、様々な市民活動がより活性化されるための充電期間として、更なる活動のステップアップを図り、新型コロナウイルスと共生していかなければならない社会においても、人々が輝き、楽しみ、つながり、喜びと充実感を分かち合える活力あふれるまちづくりをめざし、芸術や文化、伝統をテーマに、あらためて鹿嶋市の魅力を再確認し情報発信していくことを目的としています。 |
| 目的達成のための手順 | <ul style="list-style-type: none"> 2020+1 KASHIMAー文化交流フェスティバルの開催（ひまわり雑壇の設置、ペットボトルキャップアート作品展、第24回鹿嶋市美術展覧会、交流体験活動、交流作品展示など） KASHIMAポストカード、オリジナル缶バッジ、オリンピック開催記念バッジの配布 |
| 国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等 | <p>【オリンピック開催と社会教育活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあります。 東京2020オリンピック競技大会を活用し、社会教育活動の活性化にリンクさせ、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか、そのレガシーを実現するためにはどのような課題があるのかなど、学びを通じたまちづくり、新たなことに取り組む絶好の機会としています。 |

3 数値目標と実績 (Do)

| 数値目標 | 目標内容 | 単位 | R3年度 (実績) | R4年度 (予定・見込) | R5年度 (予定・見込) | R6年度 (予定・見込) | R7年度 (予定・見込) |
|------|------|------------------------------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバルの開催 | 人 | 1,244 | — | — | — |

| 投入コスト | 全体計画 | | R3年度 (決算額：千円) | R4年度 (予算額：千円) | R5年度 (計画額：千円) | R6年度 (計画額：千円) | R7年度 (計画額：千円) |
|-------|---------------------|--------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 事業経費 | 2020+1 文化交流フェスティバル | | 1,000 | 0 | 0 | 0 |
| | 雑壇製作・設置業務委託 | | 389 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ステージ設置業務委託 | | 385 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 | | 1,774 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | 国県支出金 | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | |
| | その他(参加者負担金) | | | | | | |
| | 一般財源 | | 1,774 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 従事職員数 | 正規職員（フルタイム勤務者） | | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他職員（再任用（短）、嘱託職員等） | | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

| 具体的施策名 | 達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定 | | 事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか | 成果に関する指標に係る評価 ※どれだけ成果が上がったか | 執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価 | 個別事業実績評価 |
|-------------------------------|---|---|---|--|---|--|
| | 事業実施に直接関連する指標 | 成果に関する指標 | | | | |
| ①2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバルの開催 | オリンピックサッカー競技鹿嶋市開催記念イベントとして、各市民活動団体及び地区まちづくり委員会等と連携して、芸術や文化、伝統をテーマに、鹿嶋市の魅力を再確認し、そしてより多くの方々に知っていただくための取組みを進める。 期間：7月22日(木)～8月5日(木) 会場：まちづくり市民センター | 2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバル ～夢と希望をつなぐ鹿嶋の風～の開催。 | ①おもてなし「ひまわり雑壇」の設置 ②ペットボトルキャップアート作品展 ③第24回鹿嶋市美術展覧会 ④交流体験活動 ⑤交流作品展 ⑥KASHIMAポストカードなどの記念品配布 等々 | 14日間の開催 来場者数：1,244人 ・ひまわり雑壇で来訪者をおもてなした。 ・ペットボトルキャップアートを通してSDGsの環境問題について考える機会とした。 ・第24回鹿嶋市美術展覧会同時開催。 ・様々な市民団体が体験ワークショップを実施し、郷土文化の発信や軽スポーツ体験などを実施。 ・様々な市民団体による作品展により、鹿嶋市の文化活動や魅力ある事業を周知し、次世代への継承に繋げた。 ・無観客開催でお蔵入りが懸念されたおもてなしグッズ(ポストカード、うちわ、箸置き、箸袋)は、海外メディアに配布することで、市民のおもてなしの心や市の魅力発信に繋げることができた。 | 公民館では施設の利用制限を設けるなど、新型コロナウイルス感染防止対策を行っている。コロナ禍の中でのイベントのため、密にならないような展示中心の事業内容とし、展示期間中には、展示物のガイドボランティアを依頼した。 | 個別事業実績評価点：79 [課題] 2021年度開催の文化交流フェスティバルは、約3年間に亘る活動の集大成だった。コロナ禍のなかでの文化交流フェスティバル開催の意義・目的を整理して、より多くの市民の皆様がオリンピックに関わり、活力あるまちづくり活動を推進し、オリンピックレガシーとなる事業を創出する。 |
| 【比率： 100 %】 | | | 評価： B | 評価： A | 評価： B | |
| 【比率： %】 | | | 評価： | 評価： | 評価： | 個別事業実績評価点： |

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

| | | | | | | | |
|-------------------|--|----|---|------|---|--------|---|
| 総合評価方法 | 具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA～Cの区分により総合評価とする。 | | 合計点数 | 79.0 | A：合計点数が80点超 B：合計点数が50点超80点以下 C：合計点数が50点以下 | 総合評価結果 | B |
| 実績 | 社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 令和3年度において、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた形での展示物中心のイベント「2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバルーオリンピックサッカー競技鹿嶋市開催記念イベントー」を開催した。プログラム内容は、①おもてなし「ひまわり雑壇」の設置 ②ペットボトルキャップアート作品展 ③第24回鹿嶋市美術展覧会 ④交流体験活動 ⑤交流作品展 ⑥KASHIMAポストカードなどの記念品配布 等々。14日間の開催で来場者数は1,244人 | | | | | | |
| 充実、現状維持、見直し、休止・廃止 | 現状維持 | 理由 | 令和3年度はオリンピック開催年ではあるが、コロナ感染拡大の収束が見えない状況のため、昨年度と同様規模の事業となる。 | | | | |
| 課題 | 継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 あらためて鹿嶋市の魅力(鹿嶋の歴史や伝統文化の継承、芸術活動)を再確認し、オリンピック終了後も市民にとって住みやすく、誇れるまちづくりにつながっていくような活動を継続していくことが必要である。オリンピックの延期が決まってからは、市民だけでなく行政全体の取組みや、希薄化している一つ一つの関係性がコロナ禍により、さらに減退してしまうことが大きな課題。 | | | | | | |
| 改善策 | 課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 今後は、コロナ禍でも事業に取り組むことができる方法やコロナ対策を講じながら取り組める可能性を模索し、文化交流フェスティバル等のイベントや活動に関わった人たちが、このオリンピックでの活動をふりかえり、今後の新たな活動に向けて再スタートできるよう支援していく。 | | | | | | |

令和3年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 17

| | | | | | | | |
|-------|----------------|--------------|-------|--------------|---|--------|---------|
| 主要事業名 | 放課後子ども総合プランの推進 | | | | | 作成日 | R4.5.24 |
| | | | | | | 担当課名 | 社会教育課 |
| | | | | | | 担当者名 | 野村 優 |
| 事業の性質 | 法定受託 事務 | 自治事務 (義務) | ○ | 自治事務 (任意) | ○ | 市民サービス | 管理経費 |
| 事業期間 | ○ | 単年度 | 年度繰返し | 期間限定 | | 建設事業 | その他 |
| | | | | | | 年度から | 年度まで |

1 事業の位置づけ

| | | | | | | | |
|-------------------------|-----|--------------------------|--|---------------------------|---|------------------|--|
| ①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ | | | | ②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ | | | |
| 基本方針 | 4 | 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上 | | 基本目標 | 2 | 未来を創るひとづくり・まちづくり | |
| 体系項目 | (2) | 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成 | | 基本政策 | 3 | 子どもを生み育てやすいまち | |
| 個別施策 | ② | 子どもたちの居場所づくり事業の実施 | | 基本施策 | 3 | 子育て支援の充実 | |

| | |
|-------|--|
| 根拠法令等 | 鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱, 鹿嶋市放課後児童クラブ設置条例 |
|-------|--|

2 事業概要 (Plan)

| | |
|------------|--|
| 事務事業の概要・背景 | 文部科学省及び厚生労働省による連携のもと、平成19年度から総合的な放課後児童対策として「放課後子どもプラン事業」が開始した。平成26年度には「放課後子ども総合プラン」に改められ、両事業を一体的に又は連携して実施することを目標に計画的な整備を進めてきた。 しかし、近年の女性就業率の上昇等により、更なる共働き家庭等の児童数増加が見込まれており、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携を前提とした追加整備が不可欠となることから、平成30年度に「新・放課後子ども総合プラン」が策定された。 |
|------------|--|

| | |
|---------------|---|
| 目的（事業の目指すところ） | 次代を担う人材を育成するため、すべての児童を対象に、体験活動・交流活動等を実施する放課後子ども教室と、留守家庭の児童を対象に生活の場を提供する放課後児童クラブを一体的又は連携して実施する総合的な放課後対策を目的とする。 |
|---------------|---|

| | |
|------------|--|
| 目的達成のための手順 | <ul style="list-style-type: none"> 『鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会』を開催し、地域及び学校の情報を共有するとともに、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の方針について協議する。 余裕教室の活用及び学校施設の一時的な利用に向けて各小学校との協議を進める。 各事業における参加児童の安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。 放課後子ども教室において、多様な学習、体験プログラムの充実を図る。 |
|------------|--|

| | |
|--------------------------|--|
| 国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等 | <p><国の動向> 全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めることを推進している。</p> <p><県の動向> 地域の実情に応じた研修計画の策定、教育委員会と福祉部局の具体的な連携に関する方策及び特別な配慮を必要とする児童への対応に関する方策を検討している。</p> |
|--------------------------|--|

3 数値目標と実績 (Do)

| 数値目標 | 目標内容 | 単位 | R3年度 (実績) | R4年度 (予定・見込) | R5年度 (予定・見込) | R6年度 (予定・見込) | R7年度 (予定・見込) |
|------|------------------|---------------------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 放課後児童クラブ利用者数（待機児童数） | 人 | 999 (0) | 1,142 (0) | 1,162 (0) | 1,172 (0) |
| | 放課後子ども教室（平日）利用者数 | 人 | 280 | 272 | 300 | 300 | 300 |

| 投入コスト | 全体計画 | | R3年度 (決算額：千円) | R4年度 (予算額：千円) | R5年度 (計画額：千円) | R6年度 (計画額：千円) | R7年度 (計画額：千円) |
|-----------------------|---------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 事業経費 | 放課後児童クラブ（運営委託料） | | 203,934 | 212,927 | 212,927 | 212,927 |
| （運営委託料のうち人件費） | | | (175,548) | (177,272) | (177,272) | (177,272) | (177,272) |
| 放課後児童クラブ運営委託料以外の経費 | | | 10,746 | 8,471 | 8,471 | 8,471 | 8,471 |
| 放課後子ども教室・平日（運営委託料） | | | 11,383 | 10,853 | 10,853 | 10,853 | 10,853 |
| 放課後子ども教室・平日運営委託料以外の経費 | | | 376 | 371 | 371 | 371 | 371 |
| 放課後子ども教室・休日（運営委託料） | | | 1,410 | 1,472 | 1,472 | 1,472 | 1,472 |
| 財源内訳 | 放課後子ども総合プラン運営委員会 | | 70 | 357 | 357 | 357 | 357 |
| | 合計 | | 227,919 | 234,451 | 234,451 | 234,451 | 234,451 |
| 財源内訳 | 国県支出金 | | 106,846 | 106,484 | 106,484 | 106,484 | 106,484 |
| | 地方債 | | | | | | |
| | その他(参加者負担金) | | 45,931 | 52,768 | 52,768 | 52,768 | 52,768 |
| | 一般財源 | | 75,142 | 75,199 | 75,199 | 75,199 | 75,199 |
| 従事職員数 | 正規職員（フルタイム勤務者） | | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | その他職員（再任用（短）、嘱託職員等） | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

| 具体的施策名 | 達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定 | | 事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか | 成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか | 執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価 | 個別事業実績評価 |
|------------------------------|--|---|--|---|---|--|
| | 事業実施に直接関連する指標 | 成果に関する指標 | | | | |
| ①放課後子ども教室事業(平日) 【比率: 20%】 | 放課後に学習や創作活動、地域の人たちとの交流など、さまざまな体験活動とおとして、社会性、知力の向上などを図ること、また、下校時の安全を確保するため、小学校1~3年生を対象に放課後子ども教室を開催する。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室(10小学校) | 対象児童を高学年が下校する時刻まで、または保護者迎えまで預かることで、児童の安全・安心な居場所を確保する。 ・入会希望者すべての受入 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社 | 放課後子ども教室を委託事業として5団体と契約し、事業を実施した。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室(10小学校) 評価: B | 放課後子ども教室(平日)の利用によって、低学年のみの下校児童を減少させることができた。 ・利用者数: 280人 (前年度: 259人) (前年度比: 108.1%) 評価: B | 放課後子ども教室(平日)の運営を円滑にするため、委託先及び学校との連携に努めた。また各校月に2回訪問し、運営状況を確認した。 評価: B | 個別事業実績評価点: 13 [課題] 放課後児童クラブとの一体的な運営が求められているが、実施場所が異なり連携が難しい。また、未実施である2校については場所の確保や人員不足が課題となっている。 |
| ②放課後子ども教室事業(休日) 【比率: 20%】 | 小学校1~6年生を対象に地域の方の参画を得て交流活動等の機会を提供することで、地域の人との関わりの中から社会性を得ること、また、地域全体で子どもを育てていくことを目的に、休日子ども教室を実施する。 ・休日子ども教室(10箇所) | 休日の様々な体験活動や地域住民との交流活動により、児童の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育成する。 ・運営委託契約 まちづくり委員会 10地区 | 放課後子ども教室の休日版を委託事業として10団体と契約し、事業を実施した。 ・休日子ども教室(10箇所) 開催回数 66回 ※各地区まちづくりセンターで実施した。 評価: B | 休日子ども教室では、地域の歴史を学んだり、お祭りに参加するなど、地域の特色に合わせた活動に児童が参加し、豊かな人間性を育むことができた。 ・利用者数: 1,303人 (前年度: 1,183人) (前年度比: 110.1%) ・開催回数: 66回 (前年度: 54回) (前年度比: 122.2%) 評価: B | 休日子ども教室の運営を円滑にするため、委託先との連携に努めた。また、次年度に向けた取り組みについても関係機関と協議をした。 評価: B | 個別事業実績評価点: 13 [課題] 休日に実施しているため、放課後児童クラブとの一体的な運営を図るための仕組みづくりが課題となる。 |
| ③放課後児童クラブ事業 【比率: 60%】 | 放課後や長期休業中に、保護者が子どもを安心して預けられる適切な居場所づくりを確保するための環境整備をおこなう。また、利用者増加のため、募集をおこなう。 ・児童クラブの環境整備 ニーズに応じたクラブの増設 ・募集に関する周知 広報かしま、鹿嶋市HP及びひのびしかっこ | 児童クラブ入会希望者すべての受入をおこない、保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学生児童の適切な遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。 ・入会希望者すべての受入 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社 | ・小学校臨時休業中においても待機児童を発生させることなく事業を実施し、保護者が安心して子どもを預けられる環境整備ができた。 ・広報かしま、鹿嶋市HP及びひのびしかっこにおいて、通年及び夏休み利用の募集告知を実施した。 評価: A | 児童クラブ入会希望者すべての受入をおこない、児童の適切な遊びや生活の場を提供することで、児童の健全育成を図ることができた。 ・定員: 1,336人 (前年度: 1,336人) (前年度比: 100%) ・利用者数: 999人 (前年度: 953人) (前年度比: 104.8%) 評価: A | 委託先への聞き取りにより、令和3年度のニーズを把握し、学校施設の使用計画や活用状況等についての協議などをおこない、適切な体制づくりに努めた。 評価: A | 個別事業実績評価点: 60 [課題] 年々高まるニーズに対応するための、受入場所の確保、支援員の担い手不足が課題となっている。 |

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

| | | | | | | |
|-------------------|--|------|---|---|--------|---|
| 総合評価方法 | 具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。 | 合計点数 | 86.0 | A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下 | 総合評価結果 | A |
| 実績 | 社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後児童クラブについては、小学校休業中、分散登校時には午前中から開設し、また、リモート学習中は午後2時から開設し、利用を必要とする児童全員の受け入れをおこなった。これにより、令和3年度も待機児童を発生させることなく事業をすすめた。放課後子ども教室(休日)については、新型コロナウイルス感染症の感染対策をおこない、多くの児童を参加させることができた。放課後だけでなく、児童が安全・安心に過ごすことができる居場所づくり、そして、児童の多様な体験活動及び地域住民との関わり合いなど、総合的な放課後対策を実施することができた。 | | | | | |
| 充実、現状維持、見直し、休止・廃止 | 充実 | 理由 | 保護者のニーズに応じた、放課後等に安心して子どもを預けられる環境づくりが求められている。また、年々増加する利用希望者に対応するために、受入体制の充実を図る必要がある。 | | | |
| 課題 | 継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 放課後児童クラブにおいて、年々増加する利用希望者を受け入れていくためにはクラブ増設が必要となるが、場所や支援員の確保が困難な状況である。現状で放課後子ども教室や放課後児童クラブで使用している教室も、学級編成によっては教室不足により調整が必要となっている。 | | | | | |
| 改善策 | 課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 放課後子ども教室及び放課後児童クラブの教室確保について、余裕教室や特別教室だけでは受け入れきれない場合には、一般の普通教室の活用を視野に入れて対応していく。 | | | | | |

令和3年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 18

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|--------------|--------------|--------|------|------|---------|
| 主要事業名 | 地区公民館におけるまちづくり事業の充実 | | | | | 作成日 | R4.5.25 |
| | | | | | | 担当課名 | 中央公民館 |
| | | | | | | 担当者名 | 出津 早苗 |
| 事業の性質 | 法定受託 事務 | 自治事務 (義務) | 自治事務 (任意) | 市民サービス | 管理経費 | 建設事業 | その他 |
| 事業期間 | ○ 単年度 | 年度繰返し | 期間限定 | 年度から | 年度まで | | |

1 事業の位置づけ

| | | | | | | | |
|-------------------------|-----|--------------------------|--|---------------------------|---|----------------|--|
| ①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ | | | | ②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ | | | |
| 基本方針 | 4 | 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上 | | 基本目標 | 4 | 市民と共に創るまちづくり | |
| 体系項目 | (2) | 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成 | | 基本政策 | 9 | 地域が結び、笑顔あふれるまち | |
| 個別施策 | ① | まちづくり委員会活動の支援 他 | | 基本施策 | 2 | コミュニティ活動の活性化 | |

| | |
|-------|--|
| 根拠法令等 | |
|-------|--|

2 事業概要 (Plan)

| | |
|------------|---|
| 事務事業の概要・背景 | 地域における公民館事業（まちづくり事業）を、各地区まちづくり委員会に委託することで、地域住民が求める地域活動を、自ら企画・運営する主体的な活動が実践されています。また、各地区まちづくり委員会委員と公民館職員で組織する「まちづくり連絡協議会」において、地区まちづくり委員会同士での情報交換や各種研修会の実施など、共創のまちづくりの推進に向けた取り組みを実践しています。 |
|------------|---|

| | |
|---------------|--|
| 目的（事業の目指すところ） | 市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域社会が形成されます。 |
|---------------|--|

| | |
|------------|---|
| 目的達成のための手順 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力や地域資源を活用した学習機会の提供及び地域住民の学習拠点としての公民館活動 各種事業（イベント等）を活用した地域の連帯感を育む機会の提供 自治会や子ども会、シニアクラブなどの地縁団体や様々な市民活動団体に対する支援・連携事業 |
|------------|---|

| | |
|--------------------------|--|
| 国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等 | <p>○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審）</p> <p>＜地域における社会教育の目指すもの＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域における社会教育の意義と果たすべき役割 ～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～ 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～ <p>＜「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 学びへの参加のきっかけづくりの推進 多様な主体との連携・協働の推進 多様な人材の幅広い活躍の促進 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等 |
|--------------------------|--|

3 数値目標と実績 (Do)

| 数値目標 | 目標内容 | 単位 | R3年度 (実績) | R4年度 (予定・見込) | R5年度 (予定・見込) | R6年度 (予定・見込) | R7年度 (予定・見込) |
|---------|-----------|----|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | 地区公民館利用者数 | | 人 | 132,795 | 156,000 | 252,000 | 253,000 |
| 研修会等の機会 | | 回 | 42 | 42 | 42 | 42 | 42 |

| 投入コスト | 全体計画 | | R3年度 (決算額：千円) | R4年度 (予算額：千円) | R5年度 (計画額：千円) | R6年度 (計画額：千円) | R7年度 (計画額：千円) |
|-------|---------------------|-------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 事業経費 | 地区まちづくり事業委託 | | 10,400 | 10,040 | 10,040 | 10,040 |
| | まちづくり支援事業委託 | | 1,780 | 803 | 1,103 | 1,103 | 1,103 |
| | ・まちづくり研修会等事業 | | (0) | (130) | (130) | (130) | (130) |
| | ・特色ある地域づくり事業 | | (600) | (300) | (600) | (600) | (600) |
| | ・地域活動学習会(コミュニティ)事業 | | (910) | (0) | (0) | (0) | (0) |
| | ・まちづくり活動調査・研究事業 | | (260) | (270) | (270) | (270) | (270) |
| | ・需用費・食糧費 | | (10) | (103) | (103) | (103) | (103) |
| | まちづくり市民大会事業委託 | | 500 | 450 | 450 | 450 | 450 |
| | 合計 | | 12,680 | 11,293 | 11,593 | 11,593 | 11,593 |
| 財源内訳 | 国県支出金 | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | |
| | その他(参加者負担金) | | | | | | |
| | 一般財源 | | 12,680 | 11,293 | 11,593 | 11,593 | 11,593 |
| 従事職員数 | 正規職員（フルタイム勤務者） | | 5 | 7 | 7 | 8 | 8 |
| | その他職員（再任用（短），嘱託職員等） | | 4 | 5 | 5 | 4 | 4 |

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

| 具体的施策名 | 達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定 | | 事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか | 成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか | 執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価 | 個別事業実績評価 |
|---|--|---|--|--|---|---|
| | 事業実施に直接関連する指標 | 成果に関する指標 | | | | |
| ①まちづくり事業(研修会、講座、市民大会)の開催と地域コミュニティプラン学習会の開催 【比率: 60%】 | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動や地域づくり活動、公民館の運営情報等を共有し、地域課題に対し、研究調査等を推進する組織を設置する。 まちづくり研修会、まちづくり講座等での学びの成果を発表するとともに、多くの市民と情報を共有し、今後の市民活動の方向性を示すための大会を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会の設置。 まちづくり活動関係者及び公民館職員の研修会の開催。 地域の現状や課題を取り上げ、解決を図るためにまちづくり講座を開催。 まちづくり市民大会の開催。 | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会役員会 まちづくり委員会委員長(10地区)、公民館長(11館) 地域活動学習会「地区別関係者学習会」開催 10地区公民館(5回に分けて実施) 地域活動学習会「地区代表者学習会」開催 10地区公民館(全1回) 令和元2年度に策定した「地域コミュニティプラン」の活用方法を学ぶ学習会を開催した。 <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会の設置により、共通の地域課題に対して、各地区が課題解決に向けた取り組みを推進することができた。 地域活動学習会「地区別関係者学習会」の開催(240人参加) 地域活動学習会「地区代表者学習会」の開催(48人参加) まちづくり市民大会 新型コロナウイルス感染拡大のため中止 <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域の情報や現状を把握するとともに、様々な分野の市民団体が連携・運動できるように、活動とネットワークの在り方について情報共有し、地域の将来像について協議していくことができた。 令和元2年度に策定した「地域コミュニティプラン」の活用方法を学ぶ学習会を開催した。 <p>評価: A</p> | <p>個別事業実績評価点: 45.3</p> <p>[課題] 今後は、コミュニティプランを活用し、「公民館を核にした共創のまちづくり」を推進するため、市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等について検討する。</p> |
| ②公民館事業(公民館まつり、住民体育祭等)の開催 【比率: 10%】 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の実情を反映した取り組みを地区まちづくり委員会が主体となり、企画・運営し、各種事業をおして住民の絆づくりのための事業や公益的なまちづくり事業を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が主体的に取り組むまちづくり事業の企画・運営に必要な会議、研修会の開催。 地域の課題解決に向けた取り組み、地域の絆づくり事業、公益的なまちづくり事業の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 各地区まちづくり委員会と委託契約を締結。 各地区まちづくり委員会本部役員会、専門部会議を開催。 公民館まつりなど、公益的なまちづくり事業を実施。 まちづくりだよりを年4回程度発行。 <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域の実情、特色を生かした地域づくり事業が行われた。 地域住民の日頃の活動成果を生かすための場を提供することができた。 公民館利用者/地区人口 R3年度173,616人/66,184人(2.6回) R2年度102,966人(1.5回) R1年度235,991人(3.5回) <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、地域の絆づくりを目的とした様々な事業や講座などが中止や延期となったが、地域住民が参加できる催しを感染対策を講じながら事業内容を工夫して開催することができた。 <p>評価: A</p> | <p>個別事業実績評価点: 7.55</p> <p>[課題] 新型コロナウイルス感染予防対策を講じつつ、公民館を地域活動の拠点として、コミュニティ意識の希薄化、地域役員等の担い手不足など、地域の課題やニーズに対応した活動を各種団体等と連携して、地域の絆を生かした地域づくり活動に取り組む必要がある。</p> |
| ③特色ある地域づくり事業(モデル事業)の実施 【比率: 10%】 | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり研修会やまちづくり講座、まちづくり市民大会において学習した成果を地域に還元するための取り組みをモデル事業として3年間支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を地域に還元していく活動をおして、地域課題解決に向けた地域の特色を生かした取り組みの実施。 | <ul style="list-style-type: none"> R元年度~オリ・パラレガシー事業(全地区対象・豊津地区) R2年度~コミュニティプラン推進モデル事業(波野・豊郷地区) R3年度~コミュニティプラン推進モデル事業(豊郷地区) <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> R1全地区: スポーツと健康のまちづくりネットワーク推進事業 R1豊津: 写真を活用した地域の再発見 R2波野: 「波野の宝スポットマップ」の修正・「宝の説明看板」の設置 R2豊郷: 高齢者にやさしいまちづくり事業 R3豊郷: ゆたかな郷推進事業(歴史再発見による地域の絆づくり)等 <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> 今後は今まで以上に学校、家庭、地域との連帯感を深め、地域住民と協働し地域づくり活動に取り組んでいく必要がある。モデル事業に取り組むことで、地域課題解決に向けて、様々な市民活動団体と連携した活動の実践が行われた。 <p>評価: A</p> | <p>個別事業実績評価点: 7.55</p> <p>[課題] 事業の成果を地区まちづくり委員会において評価し、今後の取り組みを検討していく必要がある。</p> |
| ④職員の階層別研修・情報交換会の実施 【比率: 20%】 | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動や地域づくり活動、公民館の運営情報等を共有し、課題に対し研究調査等を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 公民館長会議の開催 地域活動支援員会議の開催 公民館主事研修会の開催 茨城県主催研修会への参加 全国公民館研究集会への参加 | <ul style="list-style-type: none"> 公民館長会議7回 地域活動支援員会議10回 鹿嶋市立公民館職員全体研修会1回 新任公民館主事研修会1回 茨城県公民館・市民センター等職員研修(オンライン形式) <p>評価: B</p> | <ul style="list-style-type: none"> 公民館長会議、地域活動支援員会議の開催により、各地区で開催されるまちづくり事業、地域活動等についての情報交換など連絡調整を図ることができた。 茨城県の職員研修会では、全国優良公民館表彰を受けた豊郷公民館が事例発表を行った。 <p>評価: A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 公民館主事研修会においては、地域活動を支援する公民館主事のスキル向上のための重要な機会であり、研修の成果として、各種全国表彰の受賞に繋がっている。 <p>評価: A</p> | <p>個別事業実績評価点: 17.9</p> <p>[課題] 令和2年度から公民館長及び公民館主事が会計年度任用職員に変わり、地域から求められる公民館職員として期待に応えられるようさらなるスキルの向上が求められている。</p> |

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

| | | | | | | |
|-------------------|--|------|---|---|--------|---|
| 総合評価方法 | 具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。 | 合計点数 | 78.3 | A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下 | 総合評価結果 | B |
| 実績 | <p>社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、地区別にまちづくり講座、公民館研究集会をリモートで開催することによって、住みよい地域づくりを推進していくためのコミュニティ活動の重要性を再確認し、活動全体の見える化とネットワーク型コミュニティの必要性について、情報を共有するための取り組みが行われた。 各地区まちづくり委員会では、地域住民が主体的に地域づくりやまちづくり事業を実施し、地域コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取り組みが行われた。 | | | | | |
| 充実、現状維持、見直し、休止・廃止 | 現状維持 | 理由 | <p>共創のまちづくりを推進し、まちづくり活動の充実を図るためには、継続した支援が必要である。あらためて安全・安心な暮らしと住みよい地域づくりを推進していくために、各地区の魅力や課題を点検し、持続可能な地域づくりを進めていくことが必要である。</p> | | | |
| 課題 | <p>継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。</p> <p>コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等の構築に向け、基本的な方針、考え方をまとめていく必要がある。</p> | | | | | |
| 改善策 | <p>課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。</p> <p>コミュニティプランを活用し、社会の変化に対応した地域コミュニティの創造を目指す「公民館を核にした共創のまちづくり」を推進するため、コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等について検討していく。</p> | | | | | |

令和3年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 19①

| | | | | | | | |
|-------|------------------------|----------|-------|----------|---|--------|---------|
| 主要事業名 | 文化芸術の振興（文化財・伝統文化の普及活動） | | | | | 作成日 | R4.5.24 |
| | | | | | | 担当課名 | 社会教育課 |
| | | | | | | 担当者名 | 金島 慎太郎 |
| 事業の性質 | 法定受託事務 | 自治事務（義務） | ○ | 自治事務（任意） | ○ | 市民サービス | 管理経費 |
| 事業期間 | ○ | 単年度 | 年度繰返し | 期間限定 | | 建設事業 | その他 |
| | | | | | | 年度から | 年度まで |

1 事業の位置づけ

| | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|--------------------------|--|---------------------------|---|------------------|--|
| ①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ | | | | ②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ | | | |
| 基本方針 | 4 | 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上 | | 基本目標 | 2 | 未来を創るひとづくり・まちづくり | |
| 体系項目 | (3) | 生きがいづくりにつながる文化的活動の促進 | | 基本政策 | 5 | 学び・楽しみ，地域がつながるまち | |
| 個別施策 | ② | 生涯学習活動の団体の支援・育成 | | 基本施策 | 3 | 芸術活動の活性化 | |
| 根拠法令等 | 鹿嶋市社会教育推進計画 | | | | | | |

2 事業概要（Plan）

| | |
|--------------------------|---|
| 事務事業の概要・背景 | 文化芸術は、人々が心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもので、何物にも代え難い心のよりどころである。市民の文化芸術活動をさらに活性化するためには、市民一人ひとりが創造力を発揮し文化芸術を楽しめる環境を整え、継続的に支援していくことが求められている。 |
| 目的（事業の目指すところ） | 地域に根付いた祭りや踊り，文化財等に市民が触れることができる機会を創出することで，文化芸術の振興を図る。 |
| 目的達成のための手順 | <ul style="list-style-type: none"> 市内各施設（勤労文化会館，各公民館など）での文化芸術に関わる事業について，新型コロナウイルス感染症の対策を十分に行い，事業を実施していく。 文化芸術を振興する団体（文化協会，文化スポーツ振興事業団など）への支援を行い，連携を図りながら，文化芸術に関わる事業を展開する。 |
| 国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等 | 文化庁では，次代を担う子どもたちに対して，華道，茶道などの伝統文化等を体験できる機会を提供することにより，伝統文化等を継承・発展させるとともに，豊かな人間性の涵養を図ることを目的に伝統文化親子教室事業を実施している。また，当該事業では，コロナ禍において子どもたちの様々な活動機会が減少する中，地方公共団体や関係団体が一体となって，より多くの子どもたちに対して伝統文化等の体験機会を提供することも目的としている。 |

3 数値目標と実績（Do）

| 数値目標 | 目標内容 | 単位 | R3年度 （実績） | R4年度 （予定・見込） | R5年度 （予定・見込） | R6年度 （予定・見込） | R7年度 （予定・見込） |
|------|--------------|----------------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 鹿嶋市郷土かるたの累計販売数 | 個 | 274 | 290 | 310 | 330 |
| | 発掘体験における体験者数 | 人 | 0 | 80 | 90 | 100 | 100 |

| 投入コスト | 全体計画 | | R3年度 （決算額：千円） | R4年度 （予算額：千円） | R5年度 （計画額：千円） | R6年度 （計画額：千円） | R7年度 （計画額：千円） |
|-------|---------------------|--------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 事業経費 | 文化芸術普及活動への謝礼 | | 100 | 80 | 80 | 80 |
| | 文化振興事業補助金（文化協会） | | 324 | 400 | 400 | 400 | 400 |
| | 文スポ事業団運営補助金 | | 23,433 | 24,383 | 24,383 | 24,383 | 24,383 |
| | 文スポ事業団文化事業補助金 | | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 |
| | 伝統文化親子教室事業 | | 1,199 | 748 | 748 | 748 | 748 |
| | 伝統行事親子体験事業委託 | | 308 | 2,979 | 2,979 | 2,979 | 2,979 |
| | 合計 | | 26,864 | 30,090 | 30,090 | 30,090 | 30,090 |
| 財源内訳 | 国県支出金 | | 1,507 | 3,727 | 3,727 | 3,727 | 3,727 |
| | 地方債 | | | | | | |
| | その他（参加者負担金） | | | | | | |
| | 一般財源 | | 25,357 | 26,363 | 26,363 | 26,363 | 26,363 |
| 従事職員数 | 正規職員（フルタイム勤務者） | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | その他職員（再任用（短），嘱託職員等） | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

| 具体的施策名 | 達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定 | | 事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか | 成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか | 執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価 | 個別事業実績評価 |
|------------------------------|--|---|--|---|--|---|
| | 事業実施に直接関連する指標 | 成果に関する指標 | | | | |
| ①文化芸術の普及活動 【比率: 30%】 | <ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市郷土かるたをはじめとした文化財の紹介や伝統文化親子教室の実施を通じて、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を創出するとともに、市民音頭の普及も図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市郷土かるたの累計販売数 伝統文化親子教室参加者数 市民音頭普及活動数 | <ul style="list-style-type: none"> 2020+1KASHIMA文化交流フェスティバル内において、鹿嶋市郷土かるた等の展示・販売ブースを設け、市民への周知を実施した。 伝統文化親子教室として、華道教室4回、茶道教室1回実施し、伝統文化に触れる機会を設けた。 市民音頭を披露するイベントは実施できなかったものの、介護老人保健施設での普及活動を行った。 <p>評価: A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 2020+1KASHIMA文化交流フェスティバルや社会教育課窓口での鹿嶋市郷土かるたの累計販売数は274個、R3年度中の販売は75個。 伝統文化親子教室は華道教室に20組40人、茶道教室に24組48人と計88人が参加した。 <p>評価: A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 伝統文化親子教室では使用した道具を都度消毒するなど、各事業は感染対策を十分に行い実施した。 伝統文化親子教室は募集定員を大きく上回り、各教室共に約70組の応募があった。講師の厚意で定員を増やしたが、それでも応募数を上回り抽選を行い、体験教室を実施した。 <p>評価: A</p> | 個別事業実績評価点: 30 【課題】 ・鹿嶋市郷土かるたについて、その周知や販売を推進するための方策を検討していく。 ・伝統文化体験に関するニーズがあることが判明したことから、継続して実施できるよう検討する。 ・コロナ禍での市民音頭の普及活動。イベント以外の普及を模索していく。 |
| ②歴史文化に触れる機会の創出 【比率: 30%】 | 文化財に触れることで、鹿嶋市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を創出する。 | <ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市まちづくり市民センター祭の発掘体験者数 伝統行事親子体験事業 | <ul style="list-style-type: none"> まちづくり市民センター祭で、土器発掘体験を用意していたが、直前の新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。 伝統行事親子体験は、かつて地域で作られていた鹿島大助人形(厄除け人形)の作成体験や市内古墳群で出土する勾玉の作成体験を行った。 <p>評価: A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 伝統行事親子体験事業では、大助人形作り体験8組16人、大助人形ストラップ作り6組12人、勾玉作り15組30人の計58人が参加した。 <p>評価: A</p> | 大助人形や勾玉に関するパネルの掲示や、自分自身で作成した大助人形や勾玉を通して、本市の歴史に興味を持つとともに、郷土への誇りや愛着を育む機会を創出した。 | 個別事業実績評価点: 26.85 【課題】 コロナ禍であっても感染対策を施しながら、市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を提供できる方法を検討する。 |
| ③文化芸術振興団体の支援、育成 【比率: 20%】 | 鹿嶋市文化協会、鹿嶋市文化スポーツ振興事業団に対して、補助金を交付し、適宜連絡をとり、支援や育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市文化協会の会員数、事業の実施数 鹿嶋市文化スポーツ振興事業団の文化事業数 | 各団体への補助金の交付。適宜各団体との連絡調整を実施。各事業に伴う会議への出席。 | 文化協会会員数811人(前年比11名減) 文化協会事業数2 文化スポーツ振興事業団文化事業数19 | 各事業の実施にあたり、感染対策について適宜協議し、対策を行った。 | 個別事業実績評価点: 13 【課題】 文化協会会員の高齢化による会員数減少が見られるので、新たな人材発掘や新たに文化の担い手育成を検討していく。 |
| ④公民館の状況調査 【比率: 20%】 | 市民の生活のための学習や文化活動の場となる公民館について、生涯学習推進体制等整備状況調査を実施し、その利用状況を把握し、より良い市民サービスの提供を図る。 | 各公民館の利用者数 | 生涯学習推進体制等整備状況調査の実施。調査結果に基づき、経年比較を実施。 | 令和2年度公民館の年間利用者数109,152人(令和元年度375,626人) | 各公民館からの回答と前回のものを比較し、大きく変化した点等について聞き取り、誤りでないか確認した。 | 個別事業実績評価点: 13 【課題】 市民が利用しやすい施設となるように、各公民館との連携を図っていく。 |

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

| | | | | | | | |
|-------------------|---|----|--|------|---|--------|---|
| 総合評価方法 | 具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。 | | 合計点数 | 82.9 | A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下 | 総合評価結果 | A |
| 実績 | 社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 感染対策を十分に行いながら、鹿嶋市郷土かるた、伝統文化親子教室や市民音頭を通して、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を提供できた。さらに、土器発掘体験はできなかったものの、大助人形作成体験をはじめ伝統行事親子体験を実施し、市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を創出した。また、文化芸術振興団体への支援、活動の場となる公民館の利用状況を把握するなど、文化芸術の振興のために必要な施策の推進を図った。 | | | | | | |
| 充実、現状維持、見直し、休止・廃止 | 現状維持 | 理由 | 伝統文化に触れる機会が減っているため、郷土かるたや発掘体験等による機会提供が必要である。 | | | | |
| 課題 | 継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・コロナ禍で、文化財や伝統等に触れる機会が著しく減少している中、感染対策を講じながら、市の文化財や伝統等の価値を認識するための機会を創出していく必要がある。 ・イベントのみによる普及活動は、コロナ禍では開催が難しくなることもあるため、別の方法も模索していく。 ・文化芸術振興団体である文化協会の会員高齢化による会員数減少が見られるので、新たな人材発掘を検討していく。 | | | | | | |
| 改善策 | 課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・感染対策を講じながら、引き続き、文化財や伝統文化に触れる機会を提供していく。 ・文化協会の会員については、市文化財や伝統文化に触れる機会を提供しながら、その中から人材発掘や担い手の育成が可能となるよう事業を推進する。 | | | | | | |

令和3年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 19②

| | | | | | | | |
|-------|--------------------|--------------|--------------|------|--------|------|---------|
| 主要事業名 | 文化芸術の振興（市民団体の文化活動） | | | | | 作成日 | R4.5.25 |
| | | | | | | 担当課名 | 中央公民館 |
| | | | | | | 担当者名 | 出津 早苗 |
| 事業の性質 | 法定受託 事務 | 自治事務 (義務) | 自治事務 (任意) | ○ | 市民サービス | 管理経費 | |
| 事業期間 | 単年度 | ○ | 年度繰返し | 期間限定 | 建設事業 | その他 | |
| | | | | | 年度から | 年度まで | |

1 事業の位置づけ

| | | | | | | | |
|-------------------------|-----|--------------------------|--|---------------------------|---|------------------|--|
| ①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ | | | | ②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ | | | |
| 基本方針 | 4 | 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上 | | 基本目標 | 2 | 未来を創るひとづくり・まちづくり | |
| 体系項目 | (3) | 生きがいがづくりにつながる文化的活動の促進 | | 基本政策 | 5 | 学び・楽しみ、地域がつながるまち | |
| 個別施策 | ① | 芸術祭・市美術展等の発表の場の拡充 | | 基本施策 | 3 | 芸術文化の活性化 | |
| 根拠法令等 | | | | | | | |

2 事業概要 (Plan)

| | |
|--------------------------|---|
| 事務事業の概要・背景 | コロナ禍でも、市民の日頃の芸術・文化創作活動の成果を発表する機会を提供するとともに、今後の創作意欲の醸成を図り芸術・文化を身近に楽しむ機会とします。 |
| 目的（事業の目指すところ） | 市民の芸術・文化活動に対する関心を高め、意欲的な創作活動を促し、地域文化を育みます。 |
| 目的達成のための手順 | <ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽に多様な芸術・文化とふれ合い、また自分の創作作品を発表する機会の充実を図るとともに、文化活動とおした市民間交流の場の提供に努めます。 芸術文化活動を活用した東京2020大会開催に向けた市民の機運の醸成を図ります。 芸術・文化団体間の連携を図り、団体活動の活性化を図れるよう支援します。 |
| 国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等 | 市民や関連団体と共創することで、更なる芸術・文化活動の充実を図るとともに、幅広い分野の文化活動を行うことができる施設の充実などが求められています。 |

3 数値目標と実績 (Do)

| 数値目標 | 目標内容 | 単位 | R3年度 (実績) | R4年度 (予定・見込) | R5年度 (予定・見込) | R6年度 (予定・見込) | R7年度 (予定・見込) |
|------|------|---------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 市美術展出品者 | 点 | 242 | 200 | 202 | 204 |
| | 鑑賞者数 | 人 | 1,244 | 1,250 | 1,270 | 1,290 | 1,310 |

| 投入コスト | 全体計画 | | R3年度 (決算額：千円) | R4年度 (予算額：千円) | R5年度 (計画額：千円) | R6年度 (計画額：千円) | R7年度 (計画額：千円) |
|-------|---------------------|--------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 事業経費 | 市美術展覧会 | 500 | 400 | 400 | 400 | 400 |
| | 第15回て～ら祭運営委託 | 108 | 450 | 500 | 500 | 500 | |
| | 伝統文化親子教室事業 | 1,199 | 557 | 500 | 0 | 0 | |
| | 合計 | 1,807 | 1,407 | 1,400 | 900 | 900 | |
| 財源内訳 | 国県支出金 | 1,199 | 557 | 500 | 0 | 0 | |
| | 地方債 | | | | | | |
| | その他(参加者負担金) | | | | | | |
| | 一般財源 | 608 | 850 | 900 | 900 | 900 | |
| 従事職員数 | 正規職員（フルタイム勤務者） | 5 | 5 | 6 | 8 | 8 | |
| | その他職員（再任用（短），嘱託職員等） | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | |

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

| 具体的施策名 | 達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定 | | 事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか | 成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか | 執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価 | 個別事業実績評価 |
|--|--|--|--|---|--|---|
| | 事業実施に直接関連する指標 | 成果に関する指標 | | | | |
| ①文化事業の開催 (市美術展覧会) 【比率: 50%】 | 第24回鹿嶋市美術展覧会の開催(文化交流フェスティバルと同時開催) 会期:7月22日(木)~8月5日(木) 会場:まちづくり市民センター ・鹿嶋市文化協会と美術展覧会運営委託契約を締結する。 ・運営委員会、実行委員会の設置 ・部門ごとに「最優秀賞」「優秀賞」「奨励賞」「会員賞」を表彰する。 | ・出品点数目標値196点 ・鑑賞者数目標値1,000人 | ・運営委員会 2回 ・実行委員会 2回 ・審査員会議 1回 ・展覧会の開催(7/22~8/5) ・授賞式(8/21) ・広報周知活動 広報かしま/市民センターHP/市民センター広報紙/FMかしま/かしま ・申込者へ展覧会周知用ポストカード配布 | ・出品点数:242点 絵画:40点 書:67点 写真:58点 工芸:56点 自由創作:21点 ・鑑賞者数:1,653人 ・運営委員会委員8人、展覧会委員53人の協力を得て事業を円滑に実施することができた。 | 展覧会の運営に際し、芸術分野で活躍する文化協会会員による運営委員会、実行委員会を組織し、知識と経験を生かして作品の展示レイアウトや搬入・搬出に至るまで、出品者と協力して円滑に運営することができたことは、今後も継続すべき内容である。 本市の芸術文化の活性化を図るためにも市文化協会と引き続き連携していく必要がある。 | 個別事業実績評価点: 44.75 [課題] 2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバルと同時開催し、オリンピック開催記念作品を数多く発表した。 毎年課題となっている新しい創作家の発掘・育成及び若い世代(高校生等)の出品については、今後も幅広く周知し、市内高等学校においては、引き続き学校を訪問し参加協力を呼び掛けていく。 |
| ②しみセンの広場(て 〜ら祭中止による代替 事業) 【比率: 30%】 | ・まちづくり市民センターまつり「第15回て〜ら祭」の開催 ※新型コロナウイルス感染拡大により中止 ・「第15回て〜ら祭」の代替事業「しみセンの広場」の開催 会期:3月4日(金)~6日(日) 会場:まちづくり市民センター | しみセンの広場を開催し、来場者数450人(1日150人)を目指す。 | 「第15回て〜ら祭」 ・実行委員会 2回開催 ・全体打合せ 1回 →中止の決定 「しみセンの広場」開催 ・広報周知活動 市民センターホームページ/市民センター広報紙(全戸配布)/かなメール/LINE/ツイッター/インスタ(市民センター) | 「しみセンの広場」 ・来場者数:500人 ・事業内容等 <屋外>春のプチイルミネーション <屋内>市民センター活動団体の活動紹介や作品展、楽器演奏やダンス発表などの上映会、鹿島大助人形パネル展、人形づくり実演・体験 | ・新型コロナウイルス感染拡大のため「て〜ら祭」は中止し、規模を縮小した「しみセンの広場」として実施。パネル展示や映像で紹介するなど感染対策に努めた。 ・コロナ禍においても、市民活動団体や、市民センターで活動する団体が日々の活動を発表し、また、学び合う機会を提供することで、市民同士のつながりとなる場を創出することができた。 | 個別事業実績評価点: 26.85 [課題] 事業実施については、開催日数や開催規模などを新型コロナウイルス感染拡大状況により事業内容を検討する必要がある。 |
| ③伝統文化親子体験教室 【比率: 20%】 | 市内在住の小学1年生から中学3年生の子と親を対象に「華道体験教室」「茶道体験教室」を開催する。 | ・華道体験教室 全6回 親子10組(20名) 会場:まちづくり市民センター ・茶道体験教室 全3回 親子12組(24名) 会場:高松公民館 | ・華道体験教室 12月12日~3月20日 で6回計画、準備 ・茶道体験教室 1月15日~3月5日 で3回計画、準備 | ・華道体験教室 4回 ・茶道体験教室 1回 ※新型コロナウイルス感染拡大のため一部中止 | 芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携し、文化庁の「伝統文化親子教室事業」を活用した。 | 個別事業実績評価点: 15.1 [課題] 今後も、新たな芸術活動の担い手の育成に向けた取組みを行っていく必要がある。 |

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

| | | | | | | | |
|-------------------|--|----|--|------|---|--------|---|
| 総合評価方法 | 具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。 | | 合計点数 | 86.7 | A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下 | 総合評価結果 | A |
| 実績 | 社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 市美術展覧会や各種芸術文化事業を開催し、発表の場を創出することで、市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となっている。また、気軽に芸術文化を親しむ機会を創出することができている。継続的な課題(芸術文化活動を行う新たな人材)については、市内高等学校へ訪問し、引き続き市文化事業に関する情報提供(周知・広報活動)を行い、新たな人材の発掘・育成につながる取組みを継続していく必要がある。 | | | | | | |
| 充実、現状維持、見直し、休止・廃止 | 現状維持 | 理由 | 市内で最大規模の市美術展覧会(審査を伴う展覧会)は、市民が気軽に多様な芸術・文化に触れる大切な場となっている事、そして、市内の芸術家の創作意欲を高める機会として、実施内容を検討しながら審査を行う展覧会を開催するため。 | | | | |
| 課題 | 継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 市美術展覧会は、ゆとりと潤いを実感できる心豊かな市民生活を実現するために必要な事業だが、継続的な課題として文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、芸術文化活動を行う新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化活動の活性化を図る取組みを市文化協会と芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携して新たな取組みを進めていく必要がある。 | | | | | | |
| 改善策 | 課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 若い世代への広報活動を継続していくとともに、幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取組を文化協会と検討していく。 | | | | | | |